

第24回 岡山眼科フォーラム開催のご案内

プログラム

日時： 令和3年3月6日（土）17：30～19：30
形式： ZOOMにてWEBライブ配信
会費： 2,000円
参加方法： 案内状の最終頁をご確認ください

- ・本講演会はLive配信のみで、録画配信は致しません。
- ・単位については、当日の視聴ログの確認をもって受付させていただきます。
- ・本講演会ご視聴により、専門医単位2単位が取得できます。
- ・本講演会ご視聴により、岡山県医師会認定生涯教育単位3単位が取得できます。

◆ 開会の挨拶 岡山県眼科医会会長 辻 俊彦 先生

◆ 特別講演Ⅰ(17:30～18:30)
座長：倉敷中央病院 眼科 主任部長 西田 明弘 先生

「 難治嚢胞様黄斑浮腫に対する Surgical approach -
嚢胞様腔内フィブリノーゲン塊摘出- 」

神戸大学医学部眼科学教室 講師 今井 尚徳 先生

◆ 特別講演Ⅱ(18:30～19:30)
座長：川崎医科大学 眼科学1 主任教授 桐生 純一 先生

「 眼科における抗菌薬適正使用

～抗菌点眼薬を使い分ける意義とは～ 」

近畿大学医学部眼科学教室 准教授 江口 洋 先生

共催：岡山県眼科医会
千寿製薬株式会社

抄録

眼科における抗菌薬適正使用～抗菌点眼薬を使い分ける意義とは～

近畿大学医学部眼科学教室 准教授

江口 洋 先生

2015年に世界保健機関（World Health Organization : WHO）の最高意思決定機関である世界保健総会で、薬剤耐性（antimicrobial resistance : AMR）に関するグローバル・アクション・プランが採択されました。そのプランに掲げられた六つの目標の中に「抗菌薬の適正使用」がありましたが、それはつまり、WHOから各国政府に対して、「国をあげて抗菌薬の適正使用を推奨し耐性菌問題に取り組むよう」勧告がなされたこととなります。今やAMR対策は、国や診療科の枠組みを超えた地球規模の課題になっています。

眼科で問題となる耐性菌の多くは、眼表面の常在細菌叢（マイクロバイオーーム）に由来します。ということは、抗菌点眼薬を使用して眼表面マイクロバイオーームを攪乱することと、眼科での耐性菌感染症との間には何らかの関係があると思われます。抗菌点眼薬の適正使用について考える際には、眼表面マイクロバイオーームの実際と、眼科で高率に分離される耐性菌の細菌学的特徴を知っておく必要があります。同時に、臨床的にはほとんど差がないように思える各種抗菌点眼薬の違いを知ることも重要です。「地球規模の問題にクリニックで取り組んでも意味がない」と思われるかもしれませんが、今ある抗菌点眼薬を子や孫の世代の眼科医が安心して処方できるようにするには、今我々が地道に抗菌点眼薬の適正使用に取り組まねばなりません。

講演では、眼科における耐性菌の特徴、マイクロバイオーームの概念とその臨床的位置付け、および各種抗菌点眼薬の使い分けについて、新たに上市されたアジスロマイシン点眼薬の特徴も考慮しつつ言及したいと思います。

難治嚢胞様黄斑浮腫に対する

Surgical approach -嚢胞様腔内フィブリンノーゲン塊摘出-

神戸大学医学部眼科学教室 講師

今井 尚徳 先生

糖尿病黄斑浮腫 (DME)は、抗血管内皮増殖因子(VEGF)製剤 / 懸濁ステロイドの眼局所投与 / 網膜光凝固などの非外科的治療、無効例に対する硝子体手術 (PPV) などの多くの治療法を組み合わせ治療することで、良好な視力を維持できる症例数が増加している。しかし、各種治療に依存もしくは抵抗する症例が一定数存在することは临床上よく経験する。例えば抗 VEGF 製剤治療にて完全に寛解しない DME は 26-64%存在すること、PPV 単独の手術成績では 0-30%の症例で術後 DME が残存することが報告されている。これらの結果は、従来の治療だけでは全ての症例においては黄斑浮腫を消退させ得ないこと、そして、DME には未知の病態が存在する可能性があることを示唆している。また、こういった難治 DME に対する新規治療の開発は喫緊の課題でもある。

我々は難治 DME の嚢胞様腔内にフィブリンノーゲン塊を形成する症例が存在すること、そして、嚢胞様腔内壁切開術を併用してフィブリンノーゲン塊を摘出することが黄斑浮腫軽減および視力改善に有効である可能性を報告した。

糖尿病患者では、血漿中、硝子体腔、そして網膜内のフィブリンノーゲン濃度が上昇していることが報告されており、糖尿病網膜症 (DR) および DME の病態と眼内フィブリンノーゲンが密接に関連している可能性が高い。しかし、フィブリンノーゲンが DR および DME の発症・進展にどのように関与し、なぜフィブリンノーゲン塊を摘出することが有用なのかについては不明である。

本講演では、難治 DME に対するフィブリンノーゲン塊摘出を併用した嚢胞様腔内壁切開術の実際と、今後の研究の展望についてお話する。

『会費について』

本講演会の会費は、お振込みとなります。

2月26日(金)までにお振込みをお願い致します。

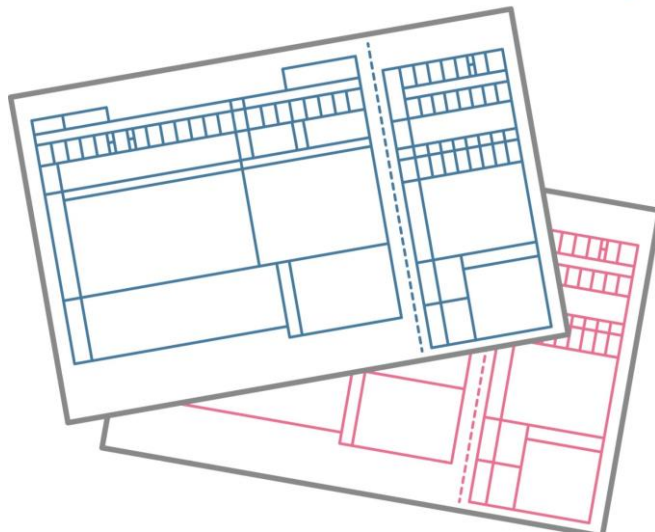
■会費：2,000円

■郵便局の払込取扱票でのお振込みとなります。

払込取扱票については、講演会開催前までに
郵送又はお持ち致します。

■振込期限：2月26日(金)まで

※振込手数料はご自身のご負担となりますので
ご了承いただけますと幸いです。



『第24回岡山県眼科フォーラム』

事前登録のご案内

令和3年3月6日(土)17:30よりWeb開催

事前登録受付は2月26日(金)までです。

事前登録、会費のお振込みが確認できた方に

3月1日(月)より視聴用リンクをお送りいたします。



<https://bit.ly/39wvMOX>

1

上記URLまたは二次元コードから参加登録画面にアクセスください。(PC、タブレット、スマートフォン全て共通)。



2

本講演会のご登録画面に移動しますので、参加者情報をご登録ください。



3

3月1日以降、登録いただいたメールアドレスに、視聴用リンクが記載された通知メールが届きます。



当日は、視聴用リンクよりアクセスし、ご視聴ください。
17:00以降アクセス可能(セミナー開始は17:30)です。

ご不明な点やお問い合わせ等がございましたら千寿製薬(株)担当者、または
松井 Mail:t-matsui@senju.co.jp Tel: 080-9598-7017
までご連絡ください。

【個人情報について】

入力いただきました個人情報は、弊社と業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。
個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。